

シマムセン第3回真空管アナログ試聴会 2025 報告 (2025.6.29)

—第2週—

1. はじめに

シマムセン CYMA で開催された第3回真空管アナログ試聴会 2025 に行ってきました。

2. 開催要項と使用機器

開催スケジュールなどは下記のとおりです。



真空管・アナログ試聴会 2025 第二週 6月29日(日) 10:30~19:00				
	ブースA	ブースB	ブースC	ブースD
10:30		オーロラサウンド		
11:00		10:30~11:30		ESOTERIC
11:30				11:00~12:00
12:00	ハーマン			
12:30	12:00~13:00		アーキジョイア	
13:00			12:30~13:30	
13:30		メス/アンダンテラルゴ		
14:00		13:30~14:30		Technics
14:30				14:00~15:00
15:00	ウエスギ			
15:30	15:00~16:00		オーディオテクニカ	
16:00			15:30~16:30	
16:30		デジタルストリーム		
17:00		16:30~17:30		エイ・アンド・エム
17:30	PDN			17:00~18:00
18:00	17:30~18:30		ノア	
18:30			18:00~19:00	
19:00				

5月29日(日)のプログラムのオーロラサウンド、ESOTERIC、アーキジョイア、メス/アンダンテラルゴのデモに参加しました。

オーロラサウンドの使用機材

真空管プリメインアンプ Aurorasound EL34PP

真空管プリメインアンプ Aurorasound HFSA-01

LCR 型フォノイコライザー Aurorasound VIDA-Mk II

NF+CR フォノイコライザー Aurorasound VIDA-prima

可変型マルチカーブフォノイコライザー Aurorasound EQ-100

アナログプレーヤー Technics SL-1300G

カートリッジ DENON DL-103

スピーカー TAD TAD-ME1TX



ESOTERIC の使用機材

アナログプレーヤー ESOTERIC Grandioso T1

カートリッジ Phasemation PP-500

フォノアンプ ESOTERIC Grandioso E1

プリアンプ ESOTERIC Grandioso C1X solo

パワーアンプ ESOTERIC Grandioso S1X

スピーカー B&W 801D4 B



アークジョイアの使用機材

レコードプレーヤー DR. FEICKERT ANALOGUE Blackbird 2

トーンアーム acoustical systems Aquilar

MC カートリッジ acoustical systems Archon

プリアンプ Burmester 077+PSU

パワーアンプ Burmester 216

フォノイコライザー Burmester 100

スピーカー Franco Serblin Ktema



メース/アンダンテラルゴの使用機材

アナログプレーヤー TechDAS Air Force V Premium

トーンアーム GLANZ MH-1200S

MC カートリッジ My Sonic Lab Signature Diamond

昇圧トランス My Sonic Lab Stage 1030

フォノイコライザー Phasemation EA-550
プリアンプ Krell ILLUSION 2
パワーアンプ Krell DUO 300 XD
スピーカー YG Acoustics SUMMIT
オーディオラック Andante Largo Grand Tower
ノイズポンプ CHORD COMPANY PhonoARRAY



3. 試聴会の経過

オーロラサウンドでは、はじめにダイアナ・クラールを NF+CR フォノイコライザーの VIDA-prima で再生し、ついで LCR 型フォノイコライザーの VIDA-Mk II で再生しましたが、後者の方が、焦点があっており、位相特性の良い LCR 型のメリットを感じました。なお、可変型マルチカーブフォノイコライザーの EQ-100 は説明だけで再生はありませんでした。

この後、LCR型フォノイコライザーのまま、ロック調の曲とコントラバスのアルコ奏法の曲がかかりましたが、真空管アンプの良さも感じられ、違和感がありませんでした。

EQ-100については、ターンオーバーとロールオフの2点ではイコライザーカーブの3点の屈曲点をカバーできないのではないかと質問しましたが、最低音の屈曲点は固定とし、低音が過剰になれば、減衰させるスイッチを使えるようにしているとのことでした。イコライザーカーブなどに触れた冊子を貰いました。なお、盤の位相については諸説あり、拘っていないということでした。

ESOTERICでは、トランペット演奏のダニーボーイの後、目玉製品のGrandioso T1とGrandioso E1の説明があり、アルゲリッチのチャイコフスキーのピアノ協奏曲1番の3楽章で、クロックをいれた場合とさらにバランス接続にして電流増幅にした場合の比較がありました。なにもしない状態では、高価なシステムとは思えないほど音楽になっていないのが、Grandioso T1の回転数制御にクロックをいれると解像度が上り、電流増幅にすると音量が上がって迫力が出るとともに何とか聴ける状態になりました。Grandioso E1についてはイコライザーカーブ可変の説明だけでデモはありませんでした。イコライザーカーブの異なる盤に対応したイコライザーカーブ可変のGrandioso E1の検証はどうしているかと聴きましたが、明快な答えはなく、ESOTERICでリマスターした盤がオリジナル盤と比べてイコライザーカーブや位相がどうなっているかの質問も答えはありませんでした。せっかくのハードの設計が、ソフトでの検証に及んでいないということのようです。この後、Hotel Californiaと女性ボーカルがかかりましたが、高価なシステムとしては、ごく平凡な印象です。

アークジョイアでは、リンダ・ロンシュタットのボーカル、ビル・エバンスとキース・ジャレットのジャズピアノ、ギターのジャズコンボ、女性ボーカルとサクソなどがかかりましたが、Franco Serblinのスピーカーの個性が強く、ジャズよりはクラシック向きのシステムという印象で、イタリアオペラなどが向いている印象でした。デモの開始前には、上記のジャケット写真の教会音楽がかかっていたましたが、ポリフォニーの合唱の濁りが気になりました。

メース／アンダンテラルゴでは、スピーカーについての解説の後、ドラムソロと女性ボーカルがかかった後、クラシック盤の再生はなく、お目当てのCHORD COMPANYのPhonoARRAYはデモの最後ということなので中座しました。スピーカーのYG Acousticsの音が支配的で、ドラムソロでは制動の効いた切れ味のよい音でした。

4. まとめ

4社すべてのデモではそれぞれ個性的なシステムでしたが、クラシックの再生が少なく、システムの真価を評価するに至りませんでした。オーロラサウンドとESTERICのデモではイコライザーカーブの切り替えができるフォノイコライザーがありました

が、実際に盤毎のイコライザーカーブの最適条件で再生することはありませんでした。

以上